

非正規労働者の訓練機会に関する実証分析[†]

—雇用形態が仕事の割り当てに及ぼす影響を考慮して—

郭 秋薇[‡]

本稿は『平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査』の個票データを利用して、雇用形態が仕事の割り当てに及ぼす影響を調べ、その影響が雇用形態による訓練格差を説明できるかを統計的に検証した。その結果、雇用形態は訓練に直接的影響を及ぼすだけでなく、仕事の割り当てを通じても影響することが明らかになった。非正規労働者は訓練機会の少ない低技能の仕事に就く確率が有意に高く、正規労働者との間の訓練格差の29%はこの影響によって説明される。また、非正規雇用の各雇用形態(パート、アルバイト、派遣社員、契約社員)によって正規雇用との間の訓練格差をもたらす原因が異なることが分かった。派遣社員と比べて、パートやアルバイトは雇用形態の直接的影響より、仕事の割り当てを通じた間接的影響による訓練格差が大きい(契約社員については有意な格差が見られない)。これらの結果は以下の政策的含意を示唆する。第一に、仕事の割り当てを通じて間接的に形成された訓練格差を解消するためには、非正規労働者が正規労働者と同等の訓練機会がある仕事に就けるように企業の雇用管理の在り方を変える必要がある。第二に、格差を効果的に解消するためには、全ての非正規労働者に対して同一の政策をとるのではなく、各雇用形態が直面する問題を考慮し、適した政策をとる必要がある。

【キーワード】 非正規雇用、能力開発、労働経済

JEL Classification: J24

[†] 本稿の作成に当たり、京都大学経済研究所・有賀健教授と京都大学大学院経済学研究科・遊喜一洋准教授から大変有益なコメントをいただいた。また、労働政策研究・研修機構から『平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査』の個票データの提供を受けた。ここに記して感謝したい。なお、本稿における誤りは全て筆者の責任である。

[‡] 京都大学大学院経済学研究科(e-mail: kuo.chiuwei.74c@st.kyoto-u.ac.jp)。